

天文教育

2025

3

*Publications of the Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy
(PJSEPA)*



＜特集＞ 近畿支部会報告

＜投稿＞ 天文教育における探究型学習課題(3)

＜投稿＞ 1941 年（昭和 16）の皆既日食

＜投稿＞ 明るい星はなぜ大きく見えるのか

＜投稿＞ 現代の占星術、昔の占星術

＜投稿＞ 1781 年 3 月 13 日は何の日？

＜書評＞ わくわく小惑星ずかん

＜その他＞事務局からのお知らせ ほか

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます（共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願いいたします）。

1. **原著論文・資料論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト（要旨）には英文も付けてください（英文は審査通過後に追加も可）。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで 6～10 ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで 2～4 ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで 1～2 ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで 1 ページ程度。
6. **裏表紙の写真**：タイトルと 400 字以内のコメントとともにご投稿ください（写真のみでも構いません）
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

・**締め切り**：1 は随時受け付け、2～7 は偶数月（発行の前月）15 日です。投稿先は post@tenkyo.net です。

・本誌に掲載された記事（上記 1～6 および 7 の一部）は、当会 Web サイトにて pdf ファイルの形で一般に公開いたします。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。

・**広告掲載**を希望される方は事務局（jimu@tenkyo.net）までお申込みください。掲載料は B5 判 1 ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4 ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートが当会 Web サイト（<https://tenkyo.net/>）からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の写真

天文関連施設シリーズ No. 2

なよろ市立天文台（愛称：きたすばる）

所在地：北海道名寄市宇日進157番地（北海道立サンピラーパーク 星見の丘）

主機材：きたてらす望遠鏡（口径 50cm）

ピリカ望遠鏡（口径 1.6m、北海道大学所有）

利用等：定例観察会○（全開館日、ピリカ望遠鏡は金・土・日のみ）、太陽観察△、プラネタリウム○、展示室○、講座室△、宿泊施設△、車椅子利用○

休館日：月曜・毎月最終火曜（祝日を除く）、年末年始など
連絡先：01654-2-3956

Web サイト：

<https://www.nayoro-star.jp/kitasubaru/index.html>

なよろ市立天文台は 2010 年 4 月にオープンした公開天文台で、名寄市が北海道大学と協力して運用しています。高校教員であった故・木原秀雄氏が設立した「私設木原天文台」が礎となっており、展示コーナーでは木原氏が生涯を捧げた太陽黒点観測や日食観測の資料などを見学できます。観測室はスライディングルーフ式の屋上観測室とドーム型観測室の 2 つあり、屋上観測室では昼夜問わず観望会を実施、金土日の夜は公開用としては国内 2 番目の大きさを誇る口径 1.6m ピリカ望遠鏡による観望も楽しめます。併設のプラネタリウム（ドーム径 8m）はデジタル式で、1 日 4 回投影。「星と音楽を楽しめる天文台」のコンセプトのもと、音楽イベントも開催しています。ここ数年は星空中継も精力的に行い、オンラインでも多くの方々に名寄の星空を楽しんでいただいています。2024 年 8 月にはペルセウス座流星群と低緯度オーロラの同時中継に成功し、注目を集めました。（表紙の写真：2024 年 10 月 11 日の低緯度オーロラ） 文責：なよろ市立天文台 内藤博之